

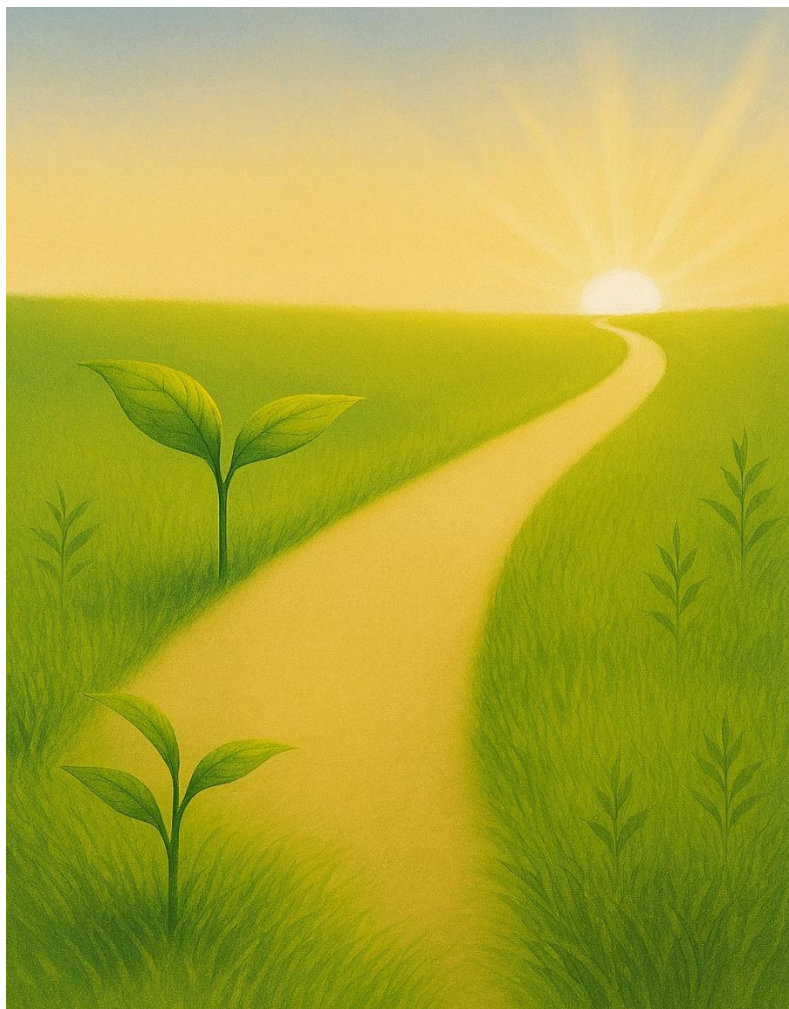


# 100年の志と未来への歩み

『継承×創造×学び』の書

—— 創設者の理念と

令和8年度ヨコミネ式教育法 5つの方針 ——



幼稚園型認定こども園

四條畷学園大学附属幼稚園

KINDERGARTEN ATTACHED TO SHIJONAWATE GAKUEN UNIVERSITY

◆ 巻頭メッセージ「100周年の節目に立つ私たちへ」・・・P2～5

令和8年度 私たちのヨコミネ式教育法の取り組みと5つの方針

[はじめに]・・・P6

1. 「やる気から挑戦へ」・・・P7

\*今年度は「やる気」を引き出した。次年度は、そのやる気を小さな挑戦へと繋げる。

2. 「頑張る力から続ける力へ」・・・P7～8

\*授けた「頑張る力」を、次年度は継続し、習慣化する力へと育てる。

3. 「競争と協調から共創へ」・・・P8

\*競争心と協調性のバランスを、次年度は「共に創る力」へと発展させる。

4. 「大好きから（未来への）夢へ」・・・P8～9

\*“大好き”になることを究極の目標とした今年度から、次年度はその「好き」を未来の夢へと繋げる。

5. 「生きる力から未来を拓く力へ」9

\*生きる力を基盤に、次年度は自ら未来を切り拓く力を育む。

[おわりに]・・・P10

\*短縮版/資料・・・P11

＊「100 周年の節目に立つ今年、私たちは何を受け継ぎ、何を未来へつなぐのか——その原点を共に確かめたいと思います。」

## 100 周年の節目に立つ私たちへ



### —— 創設者の想いととともに歩む「未来への一歩」 ——

今年、四條畷学園は創立 100 周年という大きな節目を迎えます。

この「100 年」は、単なる歴史の長さではなく、

**\*\* 子どもたちの笑顔、保護者の願い、そして教育に情熱を注いできた先人たちの努力が積み重なって生まれた“時間の厚み” \*\***です。

そして今、その節目の年に私たちがここに集っていることは、偶然ではありません。

今年初めてこの園に立つ人も、長く学園を支えてきた人も、

「100 年目の職員である」という事実は、私達一人ひとり人生の中で特別な意味を持つはずです。

しかし、日々の忙しさの中では、その重みを実感しにくいこともあります。

だからこそ年度のはじめに、創設者・牧田宗太郎氏の言葉に立ち返り、

私たちが何を受け継ぎ、何を未来へつなぐのかを改めて確認したいと思います。

## ◆ 創設者の言葉とヨコミネ式の“本質的な一致”

宗太郎氏の言葉 30 選の中でも、次の 3 つは教育の本質を示す重要な指針です。

1. 「教育とは、心を育て、人をつくる営みである。」
2. 「生徒を同じ型にはめる教育では、未来を切り拓く力は育たない。」
3. 「誰もが、生まれながらに天から与えられた能力を持っている。」

これらは、ヨコミネ式教育法の理念と驚くほど一致しています。

- 「心を育てる」⇒『心の力』
- 「個を尊重する」⇒『6つの環境』
- 「能力は誰にでもある」⇒『天からの才能=天才』

つまり、  
創設者の理念とヨコミネ式は、時代を超えて共通する“教育の真理”を示しているのです。

私たちが子どもの違いを尊重し、その可能性を信じ続けることは、  
創設者の思いにも、ヨコミネ式の理論にも合致する教育実践です。  
そしてその姿勢こそが、未来を切り拓く力を育てます。

---

## ◆ 100年目の私たちが担う役割

100周年は、過去を称えるためだけの節目ではありません。  
むしろ、  
「次の100年をつくる最初の年度」  
という意味を持ちます。

その理由は、私たちが日々行う教育・保育の積み重ねが、  
未来の学園の文化・価値観・教育水準を形づくる基盤になるからです。

- 子どもにかける一言
- 成長を信じるまなざし
- 仲間との対話や協働

これらは一見小さな行動ですが、  
\*\*未来の学園をつくる“種”\*\*となります。

だからこそ今年度は、  
「自分が100年目の学園を担っている」という誇りと責任を胸に、  
日々の実践を未来への投資として積み重ねていきます。

---

## ◆ 2026年度 ヨコミネ式教育法のテーマ

「 **未来への歩み** 」

—— 子どもと共に、私たち自身も成長し続けるために ——

このテーマは、  
子どもだけでなく、職員自身も成長し続ける組織であることを示しています。

創設者の理念、ヨコミネ式の教育理論、そして現場での実践知。  
これらを統合しながら、  
職員一人ひとりが“教育者としての未来像”を描き、行動に移すことが求められます。

今年度の一日一日の積み重ねは、  
子どもたちの未来を照らし、  
学園の未来を形づくり、  
そして私たち自身の未来を豊かにしていきます。

---

## ◆ 結びに

100周年の今、私たちは  
「歴史の継承者」であり「未来の創造者」  
という二つの役割を同時に担っています。

この園で働くことが、  
「自分の人生に必要なだった」と  
いつか胸を張って言えるように。

そして、子どもたちの未来を信じる姿勢を、  
私たち自身が確かな行動で示していけるように。

子どもたちの前に立つ者として、  
私たちは温かく誠実な関わりを選び続ける責任があります。  
職場での経験年数や立場が違って、互いを尊重し、信頼し合える関係を築くこと。  
その姿勢を揺るがせず守り続けること。  
それこそが、100周年を迎える学園の品位を支える土台になります。

創設者の志を受け継ぎ、  
学園を導く理事長の思いと歩調を合わせながら、  
私たちは園長を中心に一つにまとめ、  
“今”という時間を未来へつなぐ役割を担っています。

そして共に学び、共に支え合い、  
人として、職員として、教育者として、  
これからも成長し続けます。

「この想いを胸に、令和8年度ヨコミネ式教育法の5つの方針を全員で共有し、  
未来への歩みを共に進めていきます。」

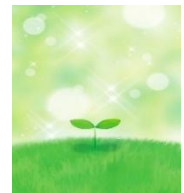
2026年4月2日 教頭 吉武寿一

令和8年度

## 私たちのヨコミネ式教育法の取り組みと5つの方針

テーマ【 **未来への歩み** 】

### [はじめに]



令和8年度のテーマは「**未来への歩み**」です。

この言葉には、\*\*子どもたちが“自分の力で未来へ向かって歩き出す一年にしたい”\*\*という、私たち職員の強い願いが込められています。

昨年度は「原点回帰」を掲げ、基礎を整え、子ども一人ひとりに応じた応用へつなぐための土台づくりに力を注ぎました。

その積み重ねは確かな変化となり、子どもたちの姿にも職員の姿勢にも、着実な成長が見られました。

その土台が育ちつつある今年度は、私たちは次の段階へ進みます。

今年度は、

**やる気を挑戦へ。**

**頑張る力を続ける力へ。**

**競争と協調を共創へ。**

**大好きという気持ちを未来の夢へ。**

**生きる力を未来を拓く力へ。**

幼児期は、人間形成の根幹が育つかけがえのない時間です。

成功も失敗も、喜びも悔しさも、すべてが未来を形づくる大切な経験になります。

そして何より、子どもたちの未来を支えるためには、私たち大人自身が歩みを止めず、学び続ける姿勢が欠かせません。

今年度は、以下の5つの方針を軸に、全職員で子どもたちの“未来への歩み”を支えていきます。

# 1:やる気から『挑戦』へ

昨年度、私たちは子どもたちの「やる気」を丁寧に引き出してきました。  
今年度は、そのやる気を“小さな挑戦”へ確実につなげます。

挑戦とは、大きな目標に向かうことではありません。  
昨日より少し難しいことに取り組む。  
できないと思っていたことに手を伸ばす。  
その積み重ねこそが、未来を切り拓く力になります。

## 【重点ポイント】

### ① やる気の芽を見逃さず、挑戦の機会へつなげる

子どもが「やってみたい」と感じた瞬間を逃さず、すぐ挑戦できる環境を整える。

### ② 挑戦のハードルを“その子に合わせて”調整する

難しすぎず、簡単すぎず、「ちょっと難しい」設定を意識する。

(以下2つは補助的な視点として簡潔に)

- ・ 挑戦の過程そのものを認め、励ます
- ・ 無理強いせず、タイミングを見極める

挑戦は、子どもたちが“自分で未来を切り拓く”ための第一歩です。

# 2:頑張る力から『続ける力』へ

幼児期に育つ「頑張る力」は、子どもたちの心の土台になります。  
今年度はその頑張りを、“続ける力”へ発展させます。

続ける力とは、成功と失敗を繰り返しながら、自分のペースで前に進み続ける力です。

## 【重点ポイント】

### ① 頑張った経験を“日々の習慣”へつなげる

逆立ち歩きのような成果も、日々の積み重ねがあつてこそ生まれる。

## ② 続けるための環境と声かけを整える

「もう一回やってみる？」など、自然と続けたいくなる雰囲気をつくる。

(補助)

- ・ その子のペースを尊重する
- ・ 成果よりも「続けた事実」を認める

続ける力は、未来で困難に出会ったときの“静かな強さ”になります。

# 3: 競争と協調から『共創』へ

昨年度は、競争心と協調性のバランスを大切にしてきました。

今年度はその土台を、“共に創る力=共創”へ発展させます。

共創とは、比べるための競争でも、ただ仲良くする協調でもありません。

互いの力を認め合いながら、新しい価値を一緒に生み出す姿勢です。

## 【重点ポイント】

### ① 競争で得た刺激を、仲間と協力する力へつなげる

「負けたくない」を、仲間と成長するエネルギーに変える。

### ② 協調で育った思いやりを、共創の行動へ発展させる

役割分担や助け合いを通して、互いの力を活かし合う。

(補助)

- ・ 多様性を認め、チームとしての力へ
- ・ 日々の保育を“つながりある学び”に

共創の力は、これからの社会で必ず求められる力です。

# 4: 大好きから『(未来への)夢』へ

昨年度は「できる」経験を積み重ね、“大好き”を育ててきました。

今年度はその“好き”を、未来の夢へとつなげます。

夢とは、将来の職業だけではありません。  
「もっと知りたい」「もっとやってみたい」という気持ちの積み重ねです。

### 【重点ポイント】

#### ① “好き”の気持ちを深める経験を増やす

夢中になれる瞬間を大切にし、興味を広げる。

#### ② できる経験を、未来への自信につなげる

小さな成功体験が、「自分ならできる」という自己肯定感を育てる。

(補助)

- ・ 探究心を育てる
- ・ 家庭と園の連携で学びの習慣を支える

幼児期に出会った「大好き」は、未来を照らす灯りになります。

## 5: 生きる力から『未来を拓く力』へ

昨年度育んだ「心の力・学ぶ力・体の力」。  
今年度はそれらを、“未来を自分で切り拓く力”へ発展させます。

未来を拓く力とは、自分で考え、選び、行動し、困難に出会っても乗り越えようとする姿勢です。

### 【重点ポイント】

#### ① 心の力 → “自分で選ぶ力”へ

感情を整え、気持ちを切り替える力が、未来の選択を支える。

#### ② 学ぶ力 → “自分で考える力”へ

調べる・試す・工夫するという探究の姿勢を育てる。

(補助)

- ・ 体の力 → 挑戦し続ける力へ
- ・ 実体験 → 未来を切り拓く感覚へ

今年度は、子どもたちが“自分の未来を自分で創る”ための一年にします。

## 【おわりに】

私たちはこれからも“発展途上であること”を大切にします。

子どもたちが日々成長するように、私たち大人もまた学び続け、変わり続ける存在でありたい。

園と家庭が手を取り合い、子どもたちの“未来への歩み”を共に応援できることは、私たちにとって何よりの喜びです。

令和8年度も、子どもたちの未来のために、職員一丸となって歩んでいきます。



令和8年4月1日

教頭 吉武寿一

# 令和8年度 ヨコミネ式教育法 5つの方針（短縮版）

～職員用・添付資料～

テーマ：【未来への歩み】



## 1：やる気 → 挑戦へ

重点：やる気の芽を逃さず挑戦へ／  
“ちょっと難しい”設定

- やる気を小さな挑戦へつなげる
- 挑戦の過程を認める

キーワード：挑戦は未来を切り拓く第一歩

## 2：頑張る力 → 続ける力へ

重点：頑張りを習慣へ／  
続けたいなる環境と声かけ

- その子のペースを尊重
- 成果より「続けた事実」を認める

キーワード：続ける力は未来の財産

## 3：競争と協調 → 共創へ

重点：競争の刺激を協力へ／  
協調の思いやりを共創へ

- 多様性を認め合う
- 日々の保育をつながりある学びに

キーワード：仲間と未来を創る力

## 4：大好き → (未来への) 夢へ

重点：“好き”を深める経験／  
成功体験を未来の自信へ

- 探究心を育てる
- 家庭と園の連携で学びを支える

キーワード：“大好き”は未来を照らす灯り

## 5：生きる力 → 未来を拓く力へ

重点：

- 心之力＝自分で選ぶ力  
学ぶ力＝自分で考える力  
体之力＝挑戦し続ける力
- 実体験＝未来を切り拓く感覚

キーワード：自立と自律の芽を未来へ

## まとめ

- 最重要は各方針の「最初の2項目」
- 今年度は  
「昨年度の基礎 → 次の一歩」へ  
(質の向上)
- 子どもたちの未来を支えるために、  
私たち自身も学び続ける



令和8年4月1日  
教頭 吉武寿一